

地面で燃やす方法と台の上に置いて空気を送りながら燃やす方法を比較した見学会＝大野町下磯

煙少なく刈草を焼却



大野の土木建設業者、装置開発

見学会でPR 時間短縮の効果も

堤防の除草などを請け負う土木建設業の山辰組（大野町稲畑）が、除草で発生する刈草の焼却が効率的になる装置を開発した。16日には、国土交通省木曽川上流河川事務所の職員らを招いた見学会を同町下磯の根尾川の河川敷で開き、煙の発生量の少なさ、焼却時間の短縮など装置の効果をアピールした。（杉原康仁）

同社では、除草した刈草をまとめて燃やす際に地面上で焼却していたが、近隣住民から煙や灰への苦情が寄せられたことがあった。焼却温度が低いため、焼却に長い時間がかかった。今回開発した方法は、鉄管で台を組み、空気を送る配管を備え付けた。

台の上に刈草を置いて燃やし、さらに空気を送ることで、天候に関係なく高温で焼却し、不完全燃焼を防ぐことができる。同社によると煙の量は、目視で10分の1程度に減ったという。

見学会では、約600キの刈草を用意。地面上、台の上、台の上で空気を送る配管を設置した場合の三つの焼却方法を比較した。空気を送る配管を設置した方法は焼却温度が約750度に達し、30分ほどで完全に燃焼したが、他の二つの方法は約400度で、燃え切るまでに1時間半以上要した。

同事務所根尾川出張所の角清正所長(55)は「煙の発生量も圧倒的に少なく、作業する側の負担も減る。非常に工夫を凝らしている」と評価。同社の馬淵和三社長(67)は「作業の効率化が社員の休日の確保にもつながる」と期待を込めた。